

ソビエトにおける賭事  
— Спортивная лотерея — に関する一考察

佐野 裕\*

On the Sport lottery in USSR

Hitoshi SANO\*

Summary

Soviet has three categories about sport lottery. One is called Sport lotto, second is Sprint and third is Sport prognosis. Both Sport lotto and Sprint are not related to the issue of sport game except Sport prognosis. Why do these lottery have the descriptive term "Sport"?

Fifty percent of the profit of these lotteries are made to use to construct and to provide sport facilities. It is the reason why these lotteries are called Sport lottery.

But we would say that the right to sport is one of the catalogues of the human right. Especially, the constitution of USSR gives a guarantee for sport as a right of soviet citizen.

We assert that government should be only include this plan in the state budget and not to depend on lottery.

ソビエトには三種類のスポーツ宝くじがある。スポーツロト、スプリント、スポーツプログノースがそれである。スポーツロトとスプリントの二つは、スポーツの試合とは直接的に関係なく、スポーツプログノースのみがスポーツ試合に関連する、それなのになぜ、スポーツという限定詞を使用するのか。

その理由は、これらの宝くじの収益金によって体育スポーツの施設を建設するからである。

しかしながら、スポーツをする権利は人間の基本的権利のひとつであり、ソビエトにおいては憲法でそれを保障している。

こうした点からみて、スポーツ振興の財源は、国家予算に依るべきであり、宝くじなどに求めるべきではないと考える。

\* 保健体育教室 (Dept. of Physical Education and Health)

## I. はじめに

竹下首相の私的諮問機関である「スポーツの振興に関する懇談会」（座長・斉藤英四郎経団連会長）は、1988年3月16日に報告書の骨子をまとめた。新聞報道によると以下の通りである。

1. オリンピックなど国際大会で優秀な成績をあげることは、国の活力を高める。
1. メダリストに対し、功労給付金を支給する。
1. 将来、スポーツ省を設置する。
1. 宝くじ、寄付金付切手などの活用によるスポーツ振興基金の充実。
1. スポーツ振興5ヶ年計画の策定。
1. 医、科学研究所を備えた国立スポーツ研究センターの設置。全寮制や6年制のスポーツ学校などの設置。（読売新聞 1988.3.17付）

「報告書に賛否の声」という新聞報道にみるように、功労金の財源やスポーツエリート育成と国民スポーツ振興の在り方などに関して、多様な論議がみられるのも事実である。確かに、肝心の財源問題などを寄付金や宝くじに求める手法には、一国のスポーツ政策の在り方として疑義がないとはいえない。

ところで、スポーツ振興の財源を宝くじに求める手法は、社会主義国ソビエトにおいてもみられる。

日刊新聞「ソビエツキースポルト」にスポーツ宝くじ — спортивные лотереи — に関するニュースや広告が、しばしば掲載されているのを見ることができる。

スポルチーブナヤ ロテリヤとはなにか。通常、ロテリヤ — лотерея — とは、わが国の宝くじのような一種の賭事を意味している。イタリア語の Lotteria に由来し、「ロシア語解釈辞典」によれば、ロージグリシー — розыгрыш — と同義であり、1) 競技、勝負 2) ある札を出すこと 3) 抽籤、くじ引き 4) 無勝負、引分けなどを意味し、くじ引きで品物を選び分けたり、当りくじと引換えに一定の賞金を支払うことなどを含意する。<sup>1), 2)</sup>

同様にロト — лото — も外来語であり、イタリア語の Lotto やフランス語の Loto からきており、賭事 — Азартная игра — を意味している。それはあらかじめ配られたカードの番号と、くじ引きによる当り番号とが合っているかないかで金品を賭けた勝負を競うものである。

こうした語義にしたがえば、スポルト ロテリヤとは一種の賭博類似行為として理解することができるだろう。このような理解が正しいとするならば、このスポーツ宝くじが社会主義的労働の理念と理論的にどのように整合するのか。興味のある問題といえよう。何故ならば、貧しき庶民が一枚の富くじに一獲千金の夢を託し、一喜一憂するこの種の賭事は人々の射倖心を煽り、労働の社会的価値を貶価せしめる社会的心理を醸成するのに力を藉すと考えられるからである。

ソビエトのスポーツ宝くじは、ソ連国家体育・スポーツ委員会スポーツ宝くじ総局によって主管されている。以下スポーツ宝くじの運営面に視点を置いて若干の考察を試みるものである。

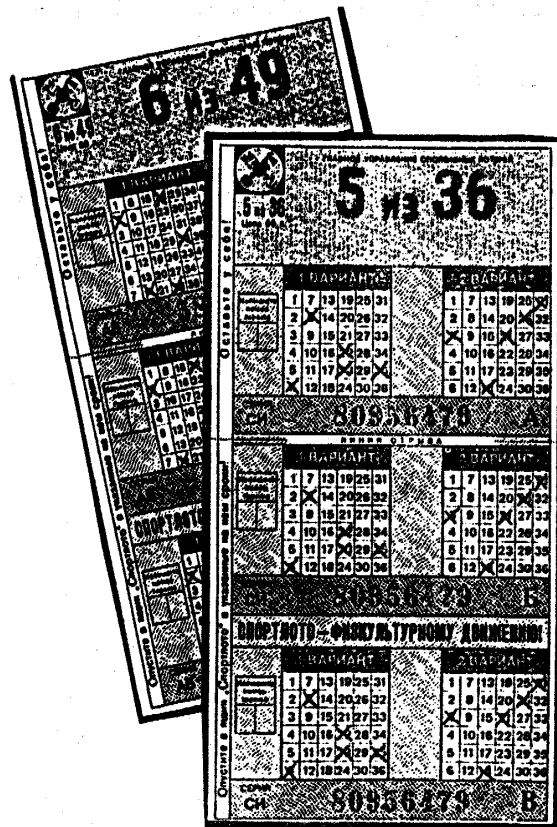
## II. スポーツロト [Спортлото=5 из 36, 6 из 49] について

J. リオルダンによれば、スポーツロトは、1964年の東京オリンピックのための選手強化費を捻出するためにはじめられたという<sup>9)</sup>。第2回目は、1968年のメキシコ大会の際に「オリンピックロテリー」として発売され、次いで1970年、ソビエト政府は「スポーツロト」を大規模スポーツ施設の整備だけではなく、より近くのスポーツ施設を整備するために毎月発売することを決定した。日刊 APN プレスニュース (1986. 5. 13, No. 3561, P. 20) によれば、1970年10月20日、モスクワのジャーナリスト中央会館で第一回の抽選がおこなわれたと報道されている。ソビエトでは、この1970年からスポーツ宝くじが発売されたと位置づけられているように思われる。ところで一枚30カペイカのスポーツロトは、資料 No. 1 に見るようにナンバー宝くじである。

即ち、たとえばスポーツロト [5 из 36] は、1から36まであるマス目の番号の中から、任意の5ケの番号を選び、三連つづりの券、A、B、Bの該当する番号のマス目に×印をつける。A券は購入者が自分で保持し、B、B券はスポーツ宝くじの売店「キオスク」や「スポーツロト」にある所定の箱に定められた期間内に入れる。B、B券はスポーツ宝くじ総局に送られる。抽選の結果とバリエーションの×印の番号が三ケ以上合っていれば当たりとなる。A券はB、B券と照合のうえ賞金が支払れる。賞金は資料 No. 2 にみるように、そのスポーツ宝くじの収益金と当りくじの枚数によって異なる。賞金の支払フオンドは、売上げ総額の50%がスポーツ振興基金となるため、残りの50%の中から運営費などの諸経費を差引いた収益金が充当される。

ところで資料 No. 1 の券は、1バリエーションと2バリエーションの二つの表がついている。この券は1981年から発売された一枚の券で二度の抽選が楽しめる券である。したがって1バリエーションの券は一枚30カペイカであるが、この券は左側上部の価格欄にも表記してあるように60カペイカである。また1バリエーション表の左側には、第何回目の宝くじ — Номер Тиража — に申込みのきの記入欄がある。抽選日の年間スケジュールは、資料 No. 3 のように定めら

資料 No. 1 スポーツナンバー宝くじ [5 из 36],  
[6 из 49] 月刊誌 — спорт в СССР,  
Москва (1985.8) стр. 28より転載。



資料 No. 2 第30回スポーツロトの結果  
[ソビエッキースポルトー1987.7.30日付]

**ИТОГИ ТИРАЖА «СПОРТЛОТО»**

Главным управлением спортивных лотерей подведены итоги 30-го тиража лотереи «Спортлото», состоявшегося 26 июля 1987 года.

«Спортлото — 46 из 45»: допущено 677,598 билетов, 6 номеров — нет, 5 номеров — 19 — по 2,779 рублей, 4 номера — 1,488 — по 40 рублей, 3 номера — 30,315 — по 3 рубля.  
«Спортлото — 45 из 36»: допу-

щено 6,388,943 билета, 5 номеров — 143 — по 2,721 руб., 4 номера — 11,669 — по 51 руб., 3 номера — 233,112 — по 4 руб.

Выплата выигрышей по билетам 30-го тиража и 10-тиражным билетам, участвовавшим в игре с 21-го по 30-й тираж, будет проводиться с 10 августа по 10 сентября 1987 года.

(ТАСС.)

枚, 賞金額は51ルーブル等々であることが報じられている。当たりくじの場合、B, B券と照合のうえ、賞金500ルーブル以下の場合、貯金局 — сберегательная касса — などにおいて支払われる。尚、25ルーブル以下の賞金は購入した売店にて支払われる。それ以上の賞金については、スポーツ宝くじ総局に支払い請求手続きをする。

抽選の結果は、土曜日の20時モスクワ時間に中央テレビ局で中継録画され、翌日の日曜日の朝9時、テレビ番組 [тираж/спортлото] で放映される。地方へは、テレビ番組 [орбита—1], および [орбита—2], [орбита—3], [восток], [1—Я. программа] など五つの番組を通して放映される。また、ラジオでは日曜日のモスクワ時間10時, 15時30分, 23時の番組 [маяк] において放送される。さらに人々は新聞報道によってもスポーツ宝く

資料 No. 3 1987年度第二後半期スポーツロト  
— 抽選日日程表

[ソビエッキースポルト 1987.7.30日付]

**ДАТЫ ПРОВЕДЕНИЯ ТИРАЖЕЙ  
ЛОТЕРЕИ «СПОРТЛОТО»  
ВО ВТОРОМ ПОЛУГОДИИ 1987 ГОДА**

Номер тиража	Дата проведения	Сроки выплаты выигрышей
27.	5 июля	с 20 июля по 20 августа
28.	12 июля	с 27 июля по 27 августа
29.	19 июля	с 3 августа по 3 сентября
30.	26 июля	с 10 августа по 10 сентября
31.	2 августа	с 17 августа по 17 сентября
32.	9 августа	с 24 августа по 24 сентября
33.	16 августа	с 31 августа по 30 сентября
34.	23 августа	с 7 сентября по 7 октября
35.	30 августа	с 14 сентября по 14 октября
36.	6 сентября	с 21 сентября по 21 октября
37.	13 сентября	с 28 сентября по 28 октября
38.	20 сентября	с 5 октября по 5 ноября
39.	27 сентября	с 12 октября по 12 ноября
40.	4 октября	с 19 октября по 19 ноября
41.	11 октября	с 26 октября по 26 ноября
42.	18 октября	со 2 ноября по 2 декабря
43.	25 октября	с 9 ноября по 9 декабря
44.	1 ноября	с 16 ноября по 16 декабря
45.	8 ноября	с 23 ноября по 23 декабря
46.	15 ноября	с 30 ноября по 30 декабря
47.	22 ноября	с 7 декабря 1987 г. по 7 января 1988 г.
48.	29 ноября	с 14 декабря 1987 г. по 14 января 1988 г.
49.	6 декабря	с 21 декабря 1987 г. по 21 января 1988 г.
50.	13 декабря	с 28 декабря 1987 г. по 28 января 1988 г.
51.	20 декабря	с 4 января по 4 февраля 1988 г.
52.	27 декабря	с 11 января по 11 февраля 1988 г.

れているので、宝くじ参加者は希望のする回の宝くじに申込みことになる。

さて、資料 No. 2 の新聞記事にみる第30回 [5 из 36] においては、6,388,943 枚の券が受けつけられ、そのうち5ケの番号が全部合っていた当たりくじの数は143枚、その賞金額は2,721ルーブル。以下、4ケの番号が合っていた当たりくじは11,669

枚の抽選結果について知ることができるといえる。プラウダ新聞には月曜日に報道され、「ソビエッキースポルト」紙上にはタス通信を経由して抽選の翌日には記事が掲載される。こうした宝くじは毎週約1000万枚発売され、すべて売り切れるという。日刊 APN プレスニュース (1986.5.13 付) によれば、1978年にグルジアのルスタビに住むアレクサンドル・ガガラウリは、一枚30カペイカの [スポーツロト=5 из 36] を15枚買って、71,325ルーブルの賞金を獲得したという。資料 No. 3 に見るようにスポーツロトは、1月~6月, 7月~12日の半年毎の抽選日 — дата проведения — および賞金支払期間 — сроки выплаты выигрышей — の日程が発表されている。毎週日曜日の抽選日から賞金の支払開始期間まで15

日間ある。そこで資料 No. 2, No. 3 を検討してみると、次のように理解される。たとえば、1987年7月26日に第30回の「スポーツロト」の抽選がおこなわれた。人々はこの時点で宝くじの当りはずれがわかる。しかし、賞金については不明である。4日後の7月30日の「ソビエッキースポルト」紙上に、当該スポーツ宝くじの売上げ券（受け付けた券）の総数および当りくじ券の枚数、それぞれの当りくじの賞金額が掲載される。つまり、この期間中に収益金と当りくじの枚数、賞金額の計算などがなされると推測される。当りくじの所有者は、抽選後15日から1ヶ月の間に支払を受けるということになる。この15日間は、膨大なくじ（受付けたカード）の処理期間として理解することができよう。

### III. スプリント [Слринт] について

1976年にスポーツロト [5 из 36] と同じような [スプリント] という名称のスポーツナンバー宝くじが発売された。これは抽選なしの宝くじで、その名称のスプリントが意味しているように、その場で当りはずれの結果がわかる「くじ」である。即ち、購入した場所で封筒をあければカードに当選賞品や賞金が記入されている。この [スプリント] の値段には一枚50カペイカと1ルーブルのものがある。賞金は50ルーブルから1万ルーブル、賞品には15000ルーブル以上もする高級車“ボルガ”もあるという<sup>4)</sup>。

### IV. スポルトプログノース [Слортлогноз] について

1987年2月14日の日刊新聞「ソビエッキースポルト」に新しいスポーツ宝くじ「スポルトプログノース」の発売記事が掲載された。これはサッカーやホッケー、バスケットボールなど、数種目のスポーツの13試合の勝敗を予想するものである。11試合以上の予想が当たっていれば、当選くじとなり賞金が支払れる。1987年2月21日に第一回目の試合が実施された。このくじの一枚の値段は32カペイカ、1バリエーション30カペイカである。3バリエーションは92カペイカ、6バリエーションは1ルーブル82カペイカとなり、他のくじと同様に、A, B, Bの三連つづりになっている（資料 No. 4 を参照）。

スポルトプログノースの参加者は、試合の予想を A, B, Bの表「バリエーション」(BAPと表記してある)のそれぞれに同じように記入するのであるが、それには資料 No. 4 のように×印をつける。即ちホストチームが勝つと予想した場合は [1] の欄に、引き分けと予想した場合は [0] の欄に、ゲストチームが勝つと予想した場合は [2] の欄に×印を記入する。1から13の数字は、くじの対象となる試合を意味する。B, Bのカードは試合の前日の金曜日までに「キオスク」または売店「スポーツロト」の所定の箱に入れる。スポルトプログノースの対象となる試合の種目、チーム名、日程などのプログラムは、くじの二週間前に発表され（資料 No. 5 を参照）、また、専門家による試合の予想も資料 No. 6 のように、10日前にはソビエッキースポルト紙上に発表される。スポルトプログノース参加者はこれらを参考に予想し、[1], [0], [2] の欄に×印を記入するのである。資料 No. 5 で、第一ゲームの場合、「ドニエプロ」がホストチーム、「ゼニート」がゲス

トチームを意味する。14/111 あるいは 15/111 は、試合日時である 3月14日、3月15日などをあらわす。資料 No. 6 は第10回スポーツプログノースの試合予想表であるが、くじの対象となる第一試合はバスケットボールと報道されている。ホストチームは「ジャリギリス」チームであり、ゲストチームは「ЦСКА」チームである。各試合の末尾に書いてある数字、たとえば試合ナンバー (1) の 20, 10, 70 の数字は、ホストチームが勝つ確率—20%, 引き分けになる確率—10%, ゲストチームが勝つ確率—70%であるという予想を意味している。このような専門家による予想を参考にして、くじの購入者は13試合の予想をカードの表 (バリエーション) に記入し、A 券は自己が保持し、B, B 券をスポーツロテリヤの売店である「キオスク」、「スポーツロト」にある所定の箱に入れるのである。そのくじ—тиража—の11試合以上の勝敗の予想が当たれば、賞金が支払れる。既に述べたように、収益金の50%が支払いフオンドになるのであるが、これはさらに分割され、13試合の全試合予想当選者 (これを第Iグループとする) の支払いフオンドとしてはその中の10%が割当てられる。また12試合の予想当選者 (第IIグループ) には20%, 11試合予想当選者 (第IIIグループ) には70%が支払いフオンドとしてそれぞれ割当てられる。したがって、賞金は夫々の支払いフオンドを各グループの当選者数で割った金額が支払われるとい

資料 No. 4 くじ券「スポーツ  
ログノーズ」の一例  
[ソビエッキースポルト.  
1988. 2. 22日付]

資料 No. 5 第11回 [スポーツプログノーズ]  
のプログラムの一例  
[ソビエッキースポルト. 1987. 2. 28日付]

**Программа 11-го тиража, 14—18 марта.**

1. «Днепр» (Днепропетровск) — «Зенит» (Ленинград) — футбол. Чемпионат СССР. 14/III
  2. «Шахтер» (Донецк) — «Кайрат» (Алма-Ата) — футбол. Чемпионат СССР. 14/III
  3. ЦСКА — «Жальгирис» (Вильнюс) — футбол. Чемпионат СССР. 14/III
  4. «Гурия» (Ланчхути) — «Спартак» (Москва) — футбол. Чемпионат СССР. 14/III
  5. «Нефтьчи» (Баку) — «Металлист» (Харьков) — футбол. Чемпионат СССР. 14/III
  6. «Динамо» (Москва) — «Динамо» (Минск) — футбол. Чемпионат СССР. 15/III
  7. «Крылья Советов» (Москва) — «Торпедо» (Горький) — хоккей с шайбой. Чемпионат СССР. 16/III
  8. «Динамо» (Рига) — «Трактор» (Челябинск) — хоккей с шайбой. Чемпионат СССР. 16/III
  9. «Сокол» (Киев) — «Спартак» (Москва) — хоккей с шайбой. Чемпионат СССР. 16/III
  10. «Торпедо» (Ярославль) — «Торпедо» (Усть-Каменогорск) — хоккей с шайбой. Чемпионат СССР. Переходный турнир. 14/III
  11. «Динамо» (Киев) — «Бешикташ» (Турция) — футбол. Кубок европейских чемпионов. 18/III
  12. «Торпедо» (Москва) — «Бордо» (Франция) — футбол. Кубок обладателей кубков. 18/III
  13. «Андерлехт» (Бельгия) — «Бавария» (ФРГ) — футбол. Кубок европейских чемпионов. 18/III
- Примечание: В розыгрыше европейских кубков по футболу учитываются результаты игр в основное игровое время.  
Главное управление спортивных лотерей.

ことになる。スポーツプログノーゼの賭けの対象となる13試合は、通常、土、日曜に実施されるが、資料 No. 5 にも見るように、その [тиража] が土曜日から月曜日、あるいは水曜日とか木曜日にまでかかるものもある。いずれにしろ、遅くとも木曜日までには13試合の全日程が終了するように、一回の宝くじ [тиража] のスケジュールはセットされている。

資料 No. 6 第10回 [スポーツプログノーゼ] の  
試合予想表の一例

[ソビエツキースポルト, 1987. 2. 28日付]

## ЛОТЕРЕЯ «Спортпрогноз»

Прогноз специалистов на 10-й тираж, 7—11 марта.

Вероятность исхода встреч в процентном выражении; при этом первая цифра означает процент возможной победы команды, указанной первой в паре; вторая — вероятность ничейного исхода; третья — вероятность победы команды, указанной второй.

1. Баскетбол.  
«Жальгирис» (Каунас) — ЦСКА — 20, 10, 70;
2. Водное поло.  
«Динамо» (Алма-Ата) — МГУ (Москва) — 40, 0, 60;
3. Футбол.  
ЦСКА — «Динамо» (Минск) — 50, 30, 20;
4. Футбол.  
«Гурья» (Ланчхути) — «Динамо» (Киев) — 0, 50, 50;
5. Футбол.  
«Нефчи» (Баку) — «Торпедо» (Москва) — 20, 30, 50;
6. Футбол.  
«Днепр» (Днепропетровск) — «Кайрат» (Алма-Ата) — 60, 20, 20;
7. Футбол.  
«Шахтер» (Донецк) — «Зенит» (Ленинград) — 20, 60, 20;
8. Футбол.  
«Динамо» (Тбилиси) — «Спартак» (Москва) — 30, 60, 10;
9. Футбол.  
«Арагат» (Ереван) — «Металлист» (Харьков) — 80, 10, 10;
10. Хоккей с шайбой.  
«Динамо» (Москва) — «Спартак» (Москва) — 70, 10, 20;
11. Хоккей с шайбой.  
«Сокол» (Киев) — «Трактор» (Челябинск) — 50, 10, 40;
12. Хоккей с мячом.  
«Кузбасс» (Кемерово) — «Динамо» (Алма-Ата) — 20, 10, 70;
13. Хоккей с мячом.  
«Строитель» (Сыктывкар) — «Зоркий» (Красногорск) — 30, 0, 70.

## V. 論 議

スポーツロテリヤの購入者には、どのような特徴がみられるのであろうか。そのプロフィールをЭ.ピツァージェの論文に探ってみる<sup>6)</sup>。先にも述べたように、毎週発売される1000万枚のスポーツ宝くじのすべてが売り切れるというように、ソビエトにおけるスポーツくじは、年々盛んになってきている。

スポーツ宝くじの購入者 91, 100 人に対するアンケートの調査結果(回答者—58, 781人, 回収率—64%)によれば、次のような傾向がみられるという。即ち、スポーツ宝くじ購入者の年齢構成は16歳～24歳が20.3%, 25歳～39歳が38.4%, 40歳以上が41.3%であったという。学歴からみると全体の12.3%が初等教育卒業, 63.9%が中等教育卒業, 高等教育卒業は23.9%の結果を示したという。この結果をどのように解釈するのかが、実は重要な論点のひとつであると考えるが、資料不足もあり、ここで展開することができないのが残念である。また職業別でみると、生産労働者は37%, サービス・事務系勤労者は25.8%, コルフォーズ労働者は5.8%, また学生が11.8%, 年金生活者は14.0%, その他5.5%である。

こうしたスポーツ宝くじ購入者の中で72.8%は定期的に購入しており、その他の27.2%

は非定期的に、たまたま購入したという。つまり殆どの人々は恒常的なスポーツ宝くじ参加者であるということができよう。しかも定期的購入者の40.4%は宝くじ購入を2～5年以上続けている常連であり、一年未満の者は20.7%にすぎない。

それではこうした人々はどの位の枚数のくじを購入しているのであろうか。くじ購入経験1年以内の人が1回のくじで購入する枚数は、1枚が37.4%、2～4枚が39.2%、5枚以上は23.4%である。くじ購入経験2年～5年の人の場合、1枚—11%、2～5枚—52.8%、5枚以上—36.2%である。また購入経験5年以上の常連の場合、1枚—9.3%、2～5枚—39%、5枚以上買う人は52.7%である。全体の平均でみると、一回の [тиража] において購入するスポーツ宝くじの枚数は、1枚の人—16.9%、2～4枚の人—44.2%、5枚以上の人—38.9%という結果を示した。ところでくじの賞金額は、これまでの検討によっても理解されるように、その都度異なるが、資料 No. 2 に見るようなスポーツロトの結果に関する記事などから推定すると、1等賞金の場合、おおよそのところ2,000ルーブルから多い時には1万ルーブルにもなることがある。これはソビエトの勤労者の平均月収の何倍に値すると言えるのであろうか。ソビエトの勤労者の平均月収を約200ルーブルとすれば<sup>6)</sup>、すくなくとも10ヶ月から4年分の月収に値するということになる。また、第Ⅱ節において紹介した賞金額72,000ルーブルの場合には、30年間分の月収にも相当する。

このように、通常の労働の対価としてではない賭博行為による月収の何十倍にも相当する多額の収入の存在が社会的に認められているのであるが、われわれはこれをどのように理解したらよいのであろうか。確かにソビエトでは競馬も行われている。こうした賭博行為は社会体制とは関係なく、古くから存在する人間社会固有の問題であるとして、社会主義社会における労働の在り方や賃金体系とは無関係に、切り離して考えてよいのであろうか。

周知のように、ソビエトでは失業者 — безработица — の根絶が計られており、憲法にも「労働の権利—право на труд」が保障されている。同時に、各人からはその能力に応じて、各人にはその労働に応じて“От каждого—по способностям, каждому—по труду”とあるように労働義務が課せられている。特に次の文言にみるように憲法には、社会的有用労働からの逸脱は社会主義社会の原理とは相いれない、という基本理念が駆われている。それではこうした憲法上の基本理念と賭け事による多額の不労所得の存在は矛盾しないのであろうか。

即ち、“Обязанность и дело чести каждого способного к труду гражданина СССР—добросовестный труд в избранной им области общественно полезной деятельности, соблюдение трудовой дисциплины. Уклонение от общественно полезного труда несовместимо с принципами социалистического общества” (ст. 60) という文言にみられる労働の在り方との理論的整合性が、スポーツロテリヤの発足に際して問題にはならなかったのであろうか。もちろん、宝くじが直ちに労働の価値を貶価せしめる社会的心理を醸成するなど結論づけることはできないかも知れない。しかしながら、資本主義的労働の在り方と社会主義的労働の在り方とを峻別するソビエトの労働の倫理からこの問題を考えると<sup>7)</sup>、スポーツロテリヤには、理論的にも実践的にも若干の疑





## 資料 No. 8 各共和国の体育・スポーツ予算

(いずれも各共和国予算支出総額の0.1%~0.2%の範囲内にあるが、エストニアの比率が若干高い)  
(単位：100万ルーブル)

ロシア連邦	29.0	26.2	23.7	23.5	23.8	126.2
ウクライナ	11.6	9.9	10.0	11.7	10.1	53.5
白ロシア	6.9	6.3	5.7	7.2	7.0	33.1
ウズベク	8.8	8.6	8.0	7.4	7.9	40.7
カザフスタン	5.7	6.0	6.1	6.1	6.7	30.6
タジキスタン	4.8	6.6	7.2	5.6	8.9	33.1
アゼルバイジャン	4.3	4.4	6.3	8.0	7.3	30.3
リトアニア	4.5	4.6	5.2	4.8	5.3	24.4
モルドバ	2.4	2.6	3.9	3.4	3.0	15.3
ルーマニア	3.3	3.7	3.8	3.0	4.1	17.9
保加リア	1.8	1.6	1.7	1.5	1.6	8.2
ギリシャ	1.5	1.5	2.1	1.4	1.6	8.1
ブルガリア	3.2	4.3	5.4	5.4	4.6	22.9
ハンガリー	1.5	1.7	1.7	1.4	1.6	7.9
エストニア	6.0	3.5	3.2	3.1	3.3	19.1

ほぼ一定であるのに対して(各共和国の体育・スポーツ関連予算額は、歳出総額に対して約0.1%の割合である)、連邦政府の体育・スポーツ関連の財政支出が減額され、前年次5ヶ年計画に比して絶対的にも相対的にも減少しているからに他ならない。この背景には、1980年のモスクワオリンピックに向けての施設設備の充実に要した財政支出が、次の5ヶ年計画次には大巾に減額されたからであると推測される。

ところで、体育・スポーツ関連予算は、各共和国の歳出総額とも関連して、その絶対額は資料 No. 8 のように異なるが、歳出総額比、即ち全支出総額に示める割合は各共和国ともすべて0.1%~0.2%の範囲内にその予算額がおさまられていることは前に述べた通りである。しかしながら、各共和国の体育・スポーツ事情、たとえば施設、設備の状況など一様ではなく、体育・スポーツ施設の整備が進んでいる共和国と未だ十分に整っていない共和国など、施設整備の進捗状況に格差のあることも事実である<sup>14)</sup>。それにもかかわらずエストニア共和国を除いて、体育・スポーツ関連の予算総額が各共和国とも歳出総額の0.1%前後におさまられているのは、いかにも画一的であるように思われる。

さて、体育・スポーツの国家予算とは、連邦政府、各共和国、地方自治体の体育スポーツ予算の総額であるが、体育・スポーツ関連予算はこれだけではない点に留意する必要がある。即ち、体育・スポーツ要員会独自の自主財源についても触れなければならない。例えば、内閣体育・スポーツ委員会は国家予算からの財政資金によってではなく、自主財源

によってその活動を遂行している。体育・スポーツ要員会はスポーツ生産総局=Главспортпрома=の生産販売からの収益、様々なスポーツイベントや企画からの収入、体育・スポーツ施設の経営による収益、そして本稿において取りあげた各種のスポーツロテリヤからの収益金（その50%は、既に述べたように配当金として還元される）などによって、その活動を支えている。ところで、ソビエトの体育・スポーツ施設は、すべて国立であるかということ、そうではない。労働組合やその他の社会公共団体のものがたくさんある。任意スポーツ団体(ДФСО)などのスポーツ施設も多い。しかもこれらの施設は一般の国民にも広く解放されており、したがって、国立の体育・スポーツ施設の比重は、相対的に低いといえることができるだろう。

体育・スポーツ施設を整備するうえで、スポーツロテリヤが重要な財源になっていることは、後述する施設名によって明らかであるが、視点をかえてこの問題をみてみると、また異った結論を導くことができるだろう。即ち、体育・スポーツは国民の基本的権利のひとつであり、その権利の十全な保障は、国家および地方行政当局に課せられた厳粛な責務であるという観点である。ソビエト憲法でも“право на отдых”として高らかに謳われている。問題なのは、この権利の財政的基盤を、なぜ国家の一般予算などの中に求めないのかという点にある。ちなみに、スポーツロテリヤの収益金で建設されたスポーツ施設を列挙すれば以下の通りである<sup>15)</sup>。

\* ロシア共和国

「オリンピック総合スポーツ場」「総合馬術競技場」(Битц), 「レーニー中央スタジアム」(Лужник), 「ボート競技場」(Крылатск), 「少年スポーツ宮殿」(Ждановск), 「“チャイカ” プール」(Москва), 「キーロフスタジアム」「冬季屋内スタジアム」(Ленинград), 「ユーノスチスポーツ総合学校」(Свердловск), 「スポーツ総合大学」(Новосибирск), 「エニセイスポーツ宮殿」(Красноярск), 「水上スポーツ基地」(Хабаровск), 「ボート基地」(Владивосток)

\* ウクライナ共和国

「中央スタジアム」(Киев), 「スポーツ宮殿」(Харьков, Одесса, Запорожье), 「水上スポーツ総合学校」(Днепр), 「ネプチューン水上基地」(севанстопол), 「チェス宮殿」(Львов), 「ユビーレニースタジアム」(полтав)

\* 白ロシア共和国

「スタイキオリンピック総合スポーツ学校」(Минск), 「ラウビチスポーツ総合学校」「ラトムカスポーツトレーニングキャンプ」

\* エストニア共和国

「オリンピック中央帆船競技場」「ヨットクラブ」(Таллин), 「乗馬施設」(Нийтвялья), 「射撃練習場」(Элва)

\* ラトビア共和国

「ダウガバスタジアム」「ヨットクラブ」(Рига), 「スポーツ総合学校」(Цесиса), 「リッペトレニング基地」(Дзентер)

\* リトアニア共和国

「ジャリギリス中央スタジアム」「スポーツ宮殿」(Вильнюс), 「スポーツ総合学校」(Каунаса), 「ボート基地」(Бирштонас および Клайпеда, Тракая)

\* モルダビ共和国

「共和国スタジアム」(Кишинева), 「レスリング専用ホール」(Бендерах), 「スタジアム」(Фалештах および Единцах)

\* グルジア共和国

「中央自転車競技スタジアム」「水上競技総合学校」(Тбилиси), 「共和国スタジアム」(сухуми), 「水泳プール・スポーツ総合学校」(Боржоми), 「ボート基地」(поті)

\* アルメニア共和国

「アルメニア中央チェス館」(Еревана), 「ボート基地」(севан 湖), 「フェンシング青年学校」(Наргавита)

\* アゼルバイジャン共和国

「共和国レーニンスタジアム」(Баку), 「クーラボート場」(Мингечаур), 「ナリマノーバスタジアム」(Нахичевань), 「学習・スポーツ基地」(кани)

\* カザフ共和国

「中央スタジアム」(Алма-та), 「高地スケートリング“メデイオ”」「チンプラークアルペンスキー場」(Зайлийские Алатао), 「スポーツ宮殿」(караганда), 「ユビーレニエスポーツ総合学校」(кокчетав), 「スタジアム」(павлдар, Петропавловск, Целноград)

\* ウズベク共和国

「パフタコール中央スタジアム」(Ташкент), 「ボート競技場」(самарканд), 「水泳プール」(Термез)

\* タジク共和国

「フルンゼ共和国スタジアム」(Душанб), 「アルペンスキー場」(Такобск), 「ホッケー競技場」(Ленинабад)

\* キリギス共和国

「アラ・アルチャボート競技場」「チョン・タジュスポーツ/保健基地」「アルペンスキー場」(Прежевальск), 「パミール国際アルピニズム基地」(Оше), 「スプートニクユースチスタジアム」(Джалал・Абаде)

\* トルクメン共和国

「スポーツ基地」(Куртли 湖畔), 「ボート基地」(Красноводск) 「水泳プール」(Ферюз)

上に紹介した施設の一例にみるように、スポルトロテリヤの収益金によって建設された体育・スポーツ施設の数はかなりものになる。スポルトロテリヤの財源としての位置づけは、このことによっても既に明らかである。

ところで、А. Иванова らの論ずるように<sup>16)</sup>、これらの諸施設は国民一般に広く解放され、その身体的資質の向上に寄与するが故に、スポルトロテリヤの実施は正当であるとする論理は、目的が正しければ如何なる手段も正当化されるという危険な論理を内包するものと言えないだろうか。

スポルトロテリヤが、人々の射倖心に依拠してはじめて存在し得ることは、それが賭け

事であることを見れば十分であり、ここに改めて論証するまでもない。ましてやその賞金額が、月収の何十倍にも相当する金額になるということを考えれば、社会的公平さにもとる問題点を孕むものと言うことができるだろう。

賭け事とは、人々の夢や幻想を喰い物にして生きるものである。敗者に対する説得として、スポーツロテリヤの収益金によって建設された体育・スポーツ施設は広く利用され、国民の体力向上、健康増進に役立っている。したがってスポーツロテリヤは、はずれのない『くじ』であり、決して損はしていないとする論理は、公的施設建設の財源を賭博行為に求める財政政策を正当化するものとして論議を要するところである。しかしながら、庶民のささやかな夢を満足させるものとして、こうしたスポーツロテリヤの存在を社会主義体制下において認めるとするならば、賞金額の上限をもつと低くして、当りくじをもっと増やすことが必要であると考えられる。社会主義的労働の在り方との関連から、一等賞金はせめて月収の5倍以下程度に抑えておく配慮が必要なのではないだろうか。ひとつの私見としてここでは主張しておきたい。即ち、スポーツナンバー宝くじ [5 из 36] の場合についていえば、一ケ以上のナンバーが当たっていれば、全て当りくじとして取扱う。賞金は一ケ以上の正解者から五ケの全ナンバーの正解者まで傾斜配分する。こうすれば宝くじの還元金は多くの参加者に広くゆきわたり、いたずらに射倖心を煽ることもなく社会的不公平感もそれほど大きくはならないということができよう。また「スポーツプログノース」の場合についていえば、1試合以上13試合までの予想があたっていれば、全て正解として、正解数に応じて賞金を傾斜配分する。こうすればひとつでも当たっていれば賞金が配当され、また一等賞金もそれほど多額な金額にはならず、庶民のささやかな夢は、それなりに満足させられるということができるだろう。

わが国においても、全国宝くじ事務協議会から諮問を受けた宝くじ問題検討委員会が、2～3年後を目途に宝くじ「ナンバーズ・ゲーム」と「ロト」を導入する方向で検討中であるという<sup>1)</sup>。また、冒頭においても触れたように「スポーツ振興懇談会」も、スポーツ振興の財源として「スポーツ宝くじ」の構想を打ち出している。

社会体制の区別なく、こうした宝くじによる収益金が行政上の重要な財源のひとつとして数えられてきている今日、財源としての賭博行為の是非、公的サービスと税金の在り方など、論議しておかなければならない問題が多々あるように思われる。

本稿は、未だわが国においては紹介されていないソビエトのスポーツロテリヤに関して、その実態を明らかにしようとしたものである。

#### 注

- 1) Толковый словарь Живого Велико Руского Языка, М., 1981.
- 2) Толковый словарь Руского Языка, Том II, М., 1976.
- 3) J. Riordan, Sport in Soviet Society, London, 1977, P. 258-259.
- 4) 日刊プレスニュース, No. 3561, 1986.5.13, 「ソビエツキースポルト」1987.12.30付には、その他「ジューグリ」「ザボロジュツ」などの自動車が賞品となっていることが記されている。
- 5) 「ソビエツキースポルト」1987.2.28付, 本紙は、国家体育・スポーツ委員会および全ソ連邦労働組合中央評議会 (ВЦСПС) によって刊行されている日刊新聞である。体育、スポーツに関するアクチュアルな報道、論説が掲載されており、今日のソビエトにおける体育、スポーツ事情を知

るうえで重要である。

- 6) Д. Н. Карпухин. под ред., Социализм и Труд, М., 1985, стр. 46-48 によれば, 185~260ルーブルとあるが, わが国では平均月収 200 ルーブルとする見方が一般的である (1987年現在).
- 7) Б. И. Дубсон. Социально—Экономические проблемы свободного времени трудящихся в условиях современного капитализма, Наука, 1980, стр. 8~20.
- 8) 「ソビエツキースポルト」1987. 6. 24付
- 9) 雑誌「СЖР」1987. 3月号
- 10) 「ソビエツキースポルト」1987. 9. 24付
- 11) 「ソビエツキースポルト」1987. 10. 20付  
尚, 1987年11月15日の東京女子国際マラソン大会に参加するために来日したソーヤ・イワノワ, エリーナ・ツフロフの両選手およびノビコフ, スメルノフの両コーチと「ソビエト体育・スポーツ研究会」のメンバーとの懇談会が, 翌11月16日にもたれた. その席上でノビコフ氏は, 50%の中のさらに60%がスポーツ施設の建設などにまわされ, 40%がスポーツ選手強化費にまわされると説明しているが, 詳細は不明である.
- 12) В. У. Агеевца. Т. М. Каневец. под ред., Организация Физической культуры и спорта. Фис., стр. 101.
- 13) Министерство Финансов СССР Бюджетное Управление, Государственный Бюджет СССР 1981-1985 статистический сборник, М., Финансы и статистика, 1987.
- 14) спорт в СССР, 9/82, стр. 4-5.
- 15) 「ソビエツキースポルト」1987. 9. 24
- 16) 同上.
- 17) 「赤旗」(風ぐるま), 1987. 11. 28.